

KAEDE

Magazine

Vol.01

Spring / Summer 2011

特集対談

池田 守男 × 阿川佐和子

第1回 いつまでも、この地に
東洋英和があることの意味

リレーエッセイ

羽生 善治さん 「忘れられないひとびと」

東洋英和歴史館

「ミス・カートメルと鹿鳴館」

EIWA Family 登場

芦田 淳ファミリー

KAEDE People

坂野 尚子さん 起業家

楓の会

いろいろな試練に出会うときは、
この上ない喜びと思いなさい。

ヤコブの手紙1章2節

試練によって信仰は取り去られ、わたしたちはぺちゃんこになります。
いわば殺されてしまうのです。
しかし、それによって、かの方はわたしたちを新たに生かし、
再び信仰を与えてくださいます。
取り去られては与えられ、ぺちゃんこにされては新たに創られます。

日本基督教団鳥居坂教会
牧師 張田 眞

EIWA
Gallery

Vol.01

Spring / Summer 2011

Contents

- 01 **EIWA Gallery**
- 03 特集対談 私たちの英和、今、そして未来
池田守男 × 阿川佐和子
第1回 いつまでも、この地に
東洋英和があることの意味
- 08 **リレーエッセイ**
羽生 善治さん 「忘れられないひとびと」
- 09 **東洋英和歴史館 第1回**
「ミス・カートメルと鹿鳴館」
- 11 **EIWA Family 登場**
芦田 淳 ファミリー
- 13 **KAEDE People**
坂野 尚子さん 起業家
- 15 **Event Report**
橋本 五郎氏講演会 「真の教育とは何か」
- 17 **Event・Report・Topics**
- 18 **東洋英和楓の会からのお知らせ**

いつまでも、この地に

東洋英和があることの意味



東洋英和女学院理事長・院長
東洋英和楓の会会長

作家・エッセイスト

阿川 佐和子 × 池田 守男

キリスト教との出会いは ココロラ

阿川 前回お会いしたのは一昨年の夏でしたね。お久しぶりです。

池田 そうでした。暑いときでした。野尻を語る会に来ていただいて。

阿川 今日は、池田院長にいろいろお話を伺いたいと思って、楽しみにしてまいりました。院長は何年目になりますか？

池田 院長になって4年目。理事長の方は6年目ですね。

阿川 え、もうそんなになられるんですね。池田院長は資生堂の前社長でいらして、私の中では経済界から来られた方というイメージだったのですが、でもよく伺ってみれば、東京神学大学を卒業されているんですね。

池田 はい。もともと牧師になろうと思っていましたから。

阿川 そっちが先でいらしたんですね。ご家庭もそういう関係で？

池田 いえ。そうではなくて。私の生まれは高松で、熱心な日蓮宗信者の家に育ちました。特に信仰心の篤かった祖父母からは、「お天道様が見ているよ」とか「世間様に迷惑をかけちゃいけないよ」という教育を受けました。後から考えると、お天道様とは神様、世間様は社会のこと。見えないものに対する畏敬の念を持って社会のために尽くしなさいという

ことだったと思います。そういう環境に育ったので、小さい頃から宗教心には篤いものがありました。

阿川 対象がキリスト教に向かわれたきっかけは何だったんですか？

池田 近所にアメリカ人の大学講師もしている宣教師が住んでいたんです。あるとき招かれて遊びに行くと、チョコレートやらショートケーキやらココロラやら、見たこともない異次元の生活がそこにあって。

阿川 食べ物につられて笑。

池田 これも一つの出会いだったんでしょうね。そんなことが縁で教会に通うようになり、高校を出る頃に洗礼を受けました。

阿川 そのときに将来の職業は牧師と？

池田 まあ、徐々にその思いが強くなったというか。それで、神学大学に入学したんですが、大学4年のとき60年安保に出会い、激しい変革期の中で社会と自分との関わりを見つめ直さざるを得ない状況になって。悩んだ末、牧師になるのは社会経験を積んでからでも遅くないと考え、就職を決意し、資生堂に入社しました。

阿川 資生堂では社長になるまで秘書一筋でやってこられて、結局5代の社長に任せられたんですね。大番頭さんと呼びてもいいのかしら。

池田 おかげさまで、社長秘書として仕事をさせていただいたのはありがたかったですね。経済界を越えた各分野の方々とおつきあいの幅が広がりましたから。

阿川 そうはいつても、相性が合う合わないとかあると思いますけど、院長は人とのつきあいで何が大事だと思っ

事だと思っ

池田 やはりキリスト教という隣人愛の精神ですね。それを私に教えてくださったのが、新渡戸稲造先生でした。

阿川 5千円札の。

池田 ええ。私は新渡戸先生の『武士道』を人生のバイブルにしています。『武士道』から他者の存在や尊厳を大切にすることや、人との出会いを積極的に求め、相性にかかわらず出会いの縁を育てていくことを教えられました。ああ、隣人愛とはこれなのかなと。

阿川 でも時代は心よりモノ、経済優先の方向で進んできて、日本人は何か大切なものをどんどん切り捨ててきた気がするんですが。

池田 おっしゃる通りで、これからは経済から文化人間性を重視する時代へと変わっていくかなければならない。縁あって東洋英和の理事長、そして院長のご指名をいただきましたのも、一つの天命、教育という場でお手伝いをさせていただくチャンスを与えられたのだと解釈しています。

讃美歌を歌うと気持ちがいい

阿川 では東洋英和の院長として、教育についてのお考えをお伺いしてもいいですか。

池田 ミッションスクールの役割というのは、やはり宗教心に基づく人間教育にあると思っています。宗教心を持つことで他者の存在を尊重し、社会に対して思いやりの心を持つ。そういう精神を学校全体の



阿川 佐和子 (あがわ さわこ)

1953年、東京都に生まれる。東洋英和女学院中学部・高等部を経て、慶應義塾大学文学部西洋史学科卒業。作家、エッセイスト。現在、『週刊文春』にて対談「阿川佐和子のこの人に会いたい」を連載中。著書に『おいしいおしゃべり』（東京書籍）、小説『ウメ子』（小学館）、父・阿川弘之氏との往復書簡『蛙の子は蛙の子』（筑摩書房）、檀ふみ氏との往復エッセイ『あ言えばこう言う』、『婚約のあとで』（新潮社）、『魔女のスープ 残るは食欲2』（マガジンハウス）など多数。新刊小説を2月下旬に新潮社より発売予定。

「だけど、英和があるよ、と思えたら
どんなにか心の支えになるか」

雰囲気は落とし込んでいきたいですね。

阿川 具体的にはどのようにして？

と違って別れる。誠に信仰心が薄くて申し訳ないんですが気持ちだけは良くなって。

池田 一つは礼拝ですね。礼拝という形式をこれからも守るだけではなく、礼拝を通して喜んで神と人のために自己を役立てる精神を育てたい。もう一つは讃美歌を中心とした音楽教育。私は讃美歌というのは、歌うことを通じて神の恵みを賛美し感謝することとともに、神の存在を身近に感じることだと思っているんです。ありがたいことに、英和には礼拝や讃美歌を大切にしている伝統がありますね。

池田 私は、高等部の卒業式で卒業生が歌うロッシーニの三部作「信仰・希望・愛」を聴いていると、胸にこみ上げるものを感じて、涙が出てくるんですよ。音楽的にはね、プロの歌にはかなわないんでしょうけれど、生徒たちが歌うと卒業にあたり色々な思いを込めて歌っているのが伝わってきてね。涙が止まらないので、もうみつともなくて(笑)。

阿川 私は卒業して40年になるんですけど、未だに毎年同級生たちと集まって、ちっちゃいメサイア会をやっているんです。これをやらなきゃ年越せないよねとかいって。まず校歌を歌って、次にクリスマスの讃美歌を二通り歌って、それからようやくメサイア会に入って、ああすっきりした、それでは良いお年を、

阿川 在学中はしょっちゅう遅刻したり、お説教の時間には寝ていたり、クスクス笑っていたりもしましたけど、今になってみると、毎日礼拝を続けていたことが、人生に何かしら影響を与えてくれた気がします。

つまり、誰かがどこかで見ているという意識を持つこと、だから謙虚な気持ちを忘れないということじゃないかなって。

池田 目に見えない大きな存在を感じられるというのとは、とても幸せなことですよ。それと、場の力というのでしょうか、阿川さんが在学されていた当時のヴォーリスが設計した校舎にもそれを感じさせる力がありますよね。大学のある横浜の三保という場所も自然が美しく、大学が開学し20年以上が経ちましたが、やはり英和の精神が息づく場です。これも「場の力」を感じられる地として、これからも教職員や同窓生などの、学院関係者が一緒になって育てていきたいと思っています。教育にとって「場の力」は大切な要素ですから。阿川さんもヴォーリスの校舎で毎日すばらしい体験をされていたんだろうなと思います。

笑うことが大好き、いつも
楽しくしていた英和生気質

阿川 そうはいつでも、昨今は携帯電話とかインターネットとか、学校や家庭の外から入ってくる情報があるようにあって、子どもたちも翻弄されて。かといって、それらを全部シャットアウトすることも不可能なわけで…。

池田 そうですね。だからこそ生徒たちの心の支えとなつて、拠って立つべき確固たるものを学校と家庭が一緒になつて子どもたちに示していかないと。それはやっぱり、信仰心であり、信仰に基づく道徳心といった、よは思いやりの心だと思っんですよ。

江戸の町人社会で受け継がれてきた「江戸しぐさ」というのがあって、雨の日や狭い道で人とすれ違

うときなどの礼儀作法のことなんですけど、日本では日常生活の中でそうした思いやりの心をさりげなく伝えていく文化があったんですね。私は、生徒たちにとつて学校生活や家庭生活が、そういうものを感じる場であつてほしいなと願っているんです。

阿川 中学1年の時に、乗り物に乗ったら人の荷物を持つてさしあげなさいって、先生が。現に、通学中の電車やバスで高等部の先輩が先に座っていたりすると、「持つわよ」といってカバンを持つてくださるんです。中一からすればすごく大人のお姉様がそうされるものだから、私も座つたときは、英和の人じゃなくても「お荷物お持ちしましょう」と。別にそれも美德とか意識せず、自然とやうあうものだって思っていました。

池田 いいお話ですね。

阿川 先生の一言で生涯の印象に残っていることがたくさんあります。英和の卒業生には自分が自分

というよりも、どなたかの力になることで社会で活躍する人が多いのよ、って。自分がトップに立つというより、誰かの役に立つ人間になりなさいって、おっしゃっていただきました。

池田 英和の精神、敬神奉仕の奉仕そのものですね。**阿川** でも同級生とよく言うんです、私たち競争力ないよねって。根性ないから、あの仕事は私が取る！とか言われたら、あ、どうぞって言うっちゃうねって(笑)。だめよねと言いながら、でもそこが英和の良さかもねって。教育のおかげで、さかいます。

池田 今は日本の社会も目立ちたがり屋の方が多いですからね。私はいいと思っますよ。

阿川 もう一つ、英和のどことが好きかと言うと…今の英和生を見ていて思うのは、あんなたち私たちとおなじねって(笑)。どこで引き継がれてきたんだか、笑うことが大好き、いつも楽しくしていたい、み

「東洋英和の校舎には目に見えない
大きな場の力を感じますね」



池田 守男 (いけだ もりお)

1936年、香川県高松市に生まれる。1961年、東京神学大学卒業後、「いつかは牧師になるにしても一度社会に出てからでも遅くはない」という思いで企業への就職を決心し、資生堂入社。同社代表取締役社長、会長を経て、現在は相談役。2005年に東洋英和女学院理事長就任、2007年に同院長に就任し現在に至る。教育再生会議座長代理、経団連少子化対策委員会委員長、東京商工会議所副会頭など多数の公職を歴任。現在、公益認定等委員会委員長、日本基督教団銀座教員。

「忘れられないひとびと」

私は将棋の棋士として25年、活動を続けて来ました。その日々の積み重ねの中から大切にできたものが少しずつ熟成をされて来たと思っています。

プロになって間もない頃、小堀清一九段と対局をしたのも思い出深いです。小堀先生は明治45年生まれの時、73歳、私は16歳でしたのでお爺ちゃんと言ったとしても自然な組み合わせでした。小堀先生にとっても周囲は10代、20代の若者ばかりでしたから対局の日はパンやらジュースをたくさん買い込んで来て、彼らによく渡していました。

対局は朝の10時に始まり、昼食、夕食の1時間ずつの休憩をはさんで夜中の12時半までかかり終了しました。70代の人にとってはかなりハードとも言えるでしょう。そこから感想戦と言って反省会のようなものを通常は30分〜1時間くらい行うのですが、小堀先生は熱中をして気がついた朝の5時半になっていました。

さすがに私も朦朧として失礼をして先に帰ったのですが、記録係の少年と一緒に8時くらいまで検討を続け、翌日の別の対局の準備をしないといけないのでお開きになったようです。

明治生まれの人の気骨と迫力を体感が出来てそれからプロとして生きて行くた

たいな。ユーモアをすごく大事にする。
池田 それは私も特に感じますよ。どうしてこんな笑顔の絶えない学校なんだろうって。
阿川 私なんかうちに帰れば厳しい父はいるし、学校に行けば成績も何だし、死にたい、なんて言ってみたりして。でも友だちみんなそれを笑いのネタにしてくれる。人の不幸をどうやって楽しい話にするかって。おのずとたくましくなります。笑いで返してやろうという精神が生まれる。こうやって自殺もせずに生きられるのは、どんな不幸も笑いとばしてやるという英和のユーモア精神のおかげだつて(笑)。

また、そんな私たちに對して先生方も受けて立ってくださる。それもうれしかったですね。式典なのに、しまった黒靴下忘れた!とか言うので、マジックで塗りなさいって(笑)。ないでしょ、そんなの。
池田 そういうユーモア精神は教師の側も引き継いでいつてもらいたいですね。同時にしかることも忘れないでほしい。子どもをしかる大人が少なくなってきたりしますが、しかるといのは愛情があつてしかるものだから。
阿川 私は、ときにそれは理不尽であつてもかまわないと思うんですね。それもまた人間同士のつきあ



いであつて、あまり先生が立派なことを言っても、生徒の心に響かないんじゃないかって。
池田 学問や知識は別として、人間として成長するための基本を学べるのは、教師や友人たちとの人間同士のふれあいの中でだけ。そのふれあいが緊密になることで、いい校風がつけられていくような気がします。
阿川 さきほど院長がおっしゃった場というものが大事だということ言えば、建物は新しくなる、先生も代替わりする、でも、卒業生にとつて、この鳥居坂の地に依然として東洋英和があることが、どれほどの安心につながるか。
米国のクリントン元大統領が、「自分を愛してくれる人がこの世に一人でもいることを、子ども自身が知っていればその子は救われる」と教育について語つたというエピソードをたまたま聞いて、へえ、クリントンっていいこと言うじゃん、と思つて(笑)。
で、その一人は誰でもいいんですけど、でも誰もいないと思つたときでも、だれど英和があるよ、と思えたらどんなにか心の支えになるか。
そういう学校であり続けていたきたいなつて思っています。
池田 本当にその通りですね。社会人になつたとき、英和で学んだこと、感じたことをときどき思い出して、そのことが心の支えとなるような存在でありたい。そのために、皆さんの力をお借りしながら、私も力を尽くしてまいりたいと思います。

めの大きな指針を覚えて頂いたような気がしています。また、そんな対局の後には早朝の電車とバスに乗って帰るのですが、当然ながら多くの人々が通勤、通学へと向かう時間帯です。反対方向、戻りながら普通の道は踏みはずしたかな? と思いがながらよく帰っていました。そして、どんな状況になつてもマイノリティやアウトサイダー”の感覚も忘れないようにしながら、とはと考えています。



また、もうひとり、同年代の村山聖さんも忘れられない存在です。村山さんは幼少の時にネフローゼという腎臓系の病気を患いながらも棋士になつた稀有な存在です。深夜に及ぶ長時間の時も肩でせいで息をしながら生命を削るかのようにして対局をしていました。

しかし、そんな時にこそ誰も思いつか

いような閃きの一手を指すのです。そして、彼は同情をされるのを何よりも忌み嫌っていました。
”病気だから大変ですね”という言葉は一番、言われたくなかつたはずなんです。ですの、対局をした時は体調の事、病気の事など全く気にせずに100%の自分の力を出せるように全力を尽くしました。

その一局、一局、一瞬、一瞬が私にとっては思い出であり、大切な財産です。と言つても普段の村山さんはアニメが好きだったり、高倉健さんの映画が好きだったり飄々としたユーモアのある人でした。
亡くなる半年ぐらい前に最後に会つたのですが、その時も坦々としていて状況の深刻さを感じさせませんでした。29歳は短い生涯と言えるかも知れませんが、生命としての輝きは少しも色褪せる事はありません。

短い生涯だからこそそう出来たのではなくて、どれだけその時を大切に生きていくかを問われている気もしていて、彼の事を思い出すと考えさせられると同時に反省をさせられることも多いです。

茶道には「一期一会」という言葉がありますが、一つ一つの出会い、一つ一つの出来事をより大切にしなければいけないと痛切に思っています。



第一回 羽生 善治さん (中学部在校生父兄)

はぶ よしはる
1970年埼玉県所沢市出身。6歳の時に将棋を覚える。
1982年6級で二上達也九段に入門。1985年四段に昇段、史上3人目の中学生棋士となる。1989年初タイトル竜王を獲得。1996年、7大タイトルのグランドスラムを達成した。2008年、菊池寛賞を受賞。著書には『羽生の頭脳1-10』(日本将棋連盟)、『決断力』(角川書店)等がある。

第二回

創業期の東洋英和女学校 ミス・カートメルと鹿鳴館

明治

治15年(1882年)の暮れも押し迫った12月27日。横浜に入港した旅客船「シテイ・オブ・トーキョー」号から、ひとりの外国人女性が降り立った。カナダ・メソジスト教会の婦人伝道会社から日本に派遣された女性宣教師マーサ・J・カートメル



M. J. カートメル(中央)を囲む日本人教師と生徒たち(1885)

だった。この頃の日本といえば、明治6年に「切支丹禁令の高札」は撤去されていたものの、キリスト教の布教活動は正式には許されてはおらず、ただ黙認されているという状況だった。

築地の外国人居留地にあった宣教師館に身を落ち着けたミス・カートメルは、教会でバイブルクラスなどの活動を始めるのだが、やがて考え込んでしまう。集まってくる子供や女性たちが突然、ぼつたりと顔を見せなくなってしまうのをどうしたらいいのか。

考えるうちに彼女が思い至ったのは、伝道的手段としての学校教育だった。女子教育の中にキリスト教教育を取り入れる。ミス・カートメルの仕事は早かった。本国の伝道会社に掛け合い、麻布区東鳥居坂町に

1260平米の土地を購入、明治17年10月20日に東洋英和女学校の開校にこぎつける。

生徒定員は50名だったが、最初の授業に出席した生徒はわずかに2名。だが、心配することはなかった。たちまちに応募者はふえ、翌18年には170名、19年には250名と、定員は大幅に増加していった。

これには、背景があった。明治政府の欧化政策である。教育から生活習慣、都市計画まであらゆる面で、日本をヨーロッパのように改造しようというものだった。強引に西欧化を急いだのは、幕末の混乱期に欧米列強と取り交わした不平等条約を改正したかったためである。日本には関税自主権がなく、治外法権がまかり通っていた。法外な関税をかけられても文句は言えず、外



明治中期の鹿鳴館(横浜開港資料館所蔵)

M. J. カートメルの聖書
(初期卒業生 斎藤春子に贈られたもの)



国人の犯罪を裁くこともできない。条約改定と西欧化。風が吹けば桶屋みたいな話だが、欧化政策を主導した時の首相伊藤博文と外務卿井上馨は大まじめだった。西欧化することで、西洋人と同じ人間であることを証明して、外交交渉を有利に進める、そのために日本全体を改造するといふのである。

欧化政策の象徴とも言うべき外国人接待所「鹿鳴館」が日比谷に開館したのは、東洋英和女学校が開校した前年の明治16年。



初代校長 M. J. カートメル

鹿鳴館と言えば、シャンデリアであり、舞踏会であり、燕尾服、ローブ・デ

コルテである。慣れない衣服以上に困ったのは、踊れない、喋れない、どうしていいかわからないことだった。な



最初の校舎(1885)

のに、外交政策上やっつてることだから、連日連夜の招待であり、忌まわしき西洋ダンスである。

そんな事情もあって、英会話も欧米の生活慣習も身につけられる東洋英和女学校に娘を入れようと考える人が多くなったとしても不思議はない。欧化政策がキリスト教に好意的だったことも幸いした。これが開校直後、生徒数を急激にふやした理由であつたろう。

この頃の在校生には、岩倉、伊藤、西郷、伊達、陸奥、本野、杉、仁禮、山尾、牛場、福原といった、華族や政府高官、実業家などの、社会の上層部を形成する家庭の令嬢たちが名

を連ねていた。お嬢様たちは学校に人力車で乗り付ける。そのため、登下校時には、女学校前の鳥居坂は行き交う人力車で混雑を極めたという。

しかし、この校勢も長くは続かなかった。明治20年、条約改正交渉が失敗に終わり、井上馨は失脚。伊藤内閣も翌年、総辞職すると、鹿鳴館時代は終わりを告げ、その反動として排外主義とナショナリズムの時代が巡ってくることになる。生徒数も、明治24年には84名と激減。開校直後の生徒数増加は、一時的な欧化パブルの産物に過ぎなかったということなのだ。当時のキリスト教への好意も皮相的なものであり、ミス・カートメルの目指した建学の精神とは明らかに違っていた。

はたして彼女は、短時間に燃え上がり燃え尽きたこの狂騒をどのように見ていたのだろう。来日以来の激務が祟って体調を崩し、ミス・カートメルは明治20年4月に日本を離れている。

出典：東洋英和女学院百年史 写真提供：東洋英和女学院史料室 鹿鳴館の写真を除く

東洋英和出身の女性たちに囲まれて、学院の良さをよく理解する男性のおひとり、デザイナー芦田淳さん。父、祖父の立場で、東洋英和女学院を長年、支えてきてくださいました。現在はお嬢さんの多恵さんもデザイナーとして活躍です。芦田淳さんご一家の英和談義にお邪魔しました。

1 芦田 淳 ファミリー



現在の小学部、夏の校内服。
多恵さんのデザイン。

友子(母) 家族、娘や孫、そして従姉妹などを含めて11人、英和に通っておりましてね、みんな小学部から。

多恵(次女) それから、私の主人の祖母が英和なんですよ、幼稚園から。今、92歳です。ですから、12人です。

友子 私ね、この年で歯がいいんですよ。これも英和のおかげです。というのも月に一度、歯医者さんが歯のクリーニングに小学部にいらした。歯科室がちゃんとあって、ミス・ハミルトンの時代です。ミス・ハミルトンには英語の発音もよく習いましたわね。小学校2年生くらいだったかしら。

淳(父) それで、今も発音がよくてらっしゃる(笑)。それが言いたかったのね、歯と発音のいいこと(笑)。でも、外国人はとっても歯を大事にしているよね、やっぱり進んでいるね、英和は。

有子(長女) 私は長くニューヨークに住んでいたのですが、1年に一度、会合があるんです。上は80代のおばあさまから、母の従姉妹なんですからね、様々な年代の方にお会いして、ピアノストやブロードウェイの女優さんともいらっしやいました。年に一度しかお会いしないのに、何か一体感があつて、とても楽しい会でした。ニューヨークでも

明るく元気で、のびのび。 セーラー服と気質は変わらない。

英和生はみんな元気で飾らないの。

淳 家内の友だちを見ていても思いますが、英和の女性はタイプが似てますね。明るくて、元気でボーイッシュで、のびのびしていて気取らないのもエレガントね。

友子 で、ずけずけ言う。

有子、多恵 そうそう(笑)。

友子 いつの時代も変わらないわね、そういうところ。変わらないのは制服もね。

多恵 お正月に92歳の祖母に会いに行つたのですが、娘も一緒だったので、「娘もセーラーを着て通ってるんですよ」と、英和の話になつて。そうしたら、祖母が「本筋と二本筋よね」とセーラー服のことを話すんです。最近のことは忘れがちでも、英和のことは忘れないのね、と嬉しくなりました。

淳 いい思い出がいっぱいあるんだろうね。あなたたちもそうなるんですよ、きつと(笑)。

友子 あと、感謝の気持ちは英和で培われたわね。やはり、キリスト教の学校ですから、毎日の礼拝の中で感謝する気持ちを学びました。卒業してから、本当にいい学校を出たわ、と実感しました。これからの英和生も引き継いでいただきたいわ。



こちらは前の校内服。
デザインは芦田淳さんでした。

芦田 淳 ファッションデザイナー。株式会社ジュンアシダ代表取締役社長。格調高い上品な装いを一貫して発信し続ける日本を代表するファッションデザイナー。小学部初の校内服のデザインも手がけた。東洋英和の会顧問。

芦田 友子 株式会社ジュンアシダ代表取締役副社長。1951年高等部卒業。後輩デザイナーとして芦田淳さんと出会い、結婚。お二人のお嬢さんを育てながらアシダブランドを支えてきた。

宮 有子(後列左) 長女。1980年高等部卒業。その後シモンズ・カレッジ(アメリカ)を卒業。現在、2人のお子さんを持つ主婦。お嬢さんは幼稚園と小学校2年まで英和に在籍。その後ご主人のお仕事で渡米。11年におよぶアメリカ生活から昨年、日本に戻ったばかり。

山東 多恵(後列右) 次女。1980年中学部卒業。その後ル・ロゼ高等学校(スイス)、ロードアイランド造形大学(アメリカ)を卒業。芦田多恵の名前でミス アシダブランドのファッションデザイナーをつとめる。2児の母。小学部、夏の校内服は多恵さんのデザイン。

坂野尚子さん

リーズナブルな価格で
ネイルサロンを全国展開

おしゃれや身だしなみの一つとして働く女性や主婦が気軽にネイルサロンを利用するようになったのは、ここ数年のことだろう。

「爪をキレイにするだけで女性は幸せな気分になれる。高価なものを買うより、自分を癒すことに今はお金を使ってます」と話す坂野尚子さん。そうしたニーズにいち早く目を向け、当時まだ敷居の高かったネイルサロンを身近なものにしようと96年に会社を立ち上げた。リーズナブルな価格設定でオープンしたサロンは注目を集め、以来、着実に業績を伸ばしていく。現在は05年に始めたフィットネス事業も含めて全国に65店舗を展開する企業となったノンストレスを率いる。

「現在の経営理念は、美容と健康の分野でさまざまな幸せを提供し、ストレス解消のお手伝いをする。設立当初からそうしたコンセプトはあったのですが、ネイル事業も軌道に乗ったことで思い切った前面に打ち出しました。今後は新規事業にも力を入れていきたいですね。」



私の土台を作ってくれた英和。
卒業以来、「為せば成る」の
信条で走っています。



Profile

ばんの なおこ 株式会社ノンストレス 代表取締役社長

1976年高等部卒業。80年国際基督教大学卒業後、フジテレビアナウンサー。89年NY・コロンビア大学ビジネススクール(経営学修士課程)MBA取得。外資系コンサルティング会社KPMGピーターウィックコンサルティング勤務後、93年株式会社キャリア戦略研究所(CS INC.)設立。96年1月新会社「ザ・クイック」(05年1月「ノンストレス」に社名変更)設立。「ネイルクイック」「ネイルパフェ」「クイックシェイブ」を経営。著書に『女三十歳、ひとり海を渡る』(あき書房)『二人で働き、二人で育てよう』(日本経済新聞社)『ワーキングママのいきいき子育て』(栄光教育文化研究会)『女性の知らない7つのルール - 男たちのビジネス社会で賢く生きる法』(訳のみ・ダイヤモンド社)『天職を掴むSuper 英文履歴書レジュメくん』『自分でできるキャリアカウンセリング』(日本法令)、『キャリアカウンセラーが教える「いい仕事」ができる女性』(PHP文庫)。WEO初代会長、WEO国際理事、神宮ロータリークラブ理事、省庁の委員を歴任。公共団体、企業、コロンビア大学院、OECD等講演多数。

たった2人で始めた会社も今では300人のスタッフを抱え、人材も育ってきた。以前は自ら



動かして問題解決をすることが私の仕事でしたが、ルーティンの業務は人に任せ、新しいビジネスをしかけていくことが社長の役割だと認識しています」

英和でのびのびと学校生活を送れたことは、結果としてその後の人生の選択に大きな影響を与えたと坂野さんは振り返る。親からの自立と海外への憧れから、大学は国際基督教大学に進んだ。20歳の時中途半端な自分を変えたいと放送業界を目指し、ラジオ番組のリポーターのアルバイトをきっかけにフジテレビのアナウンサーになった。

自由でのびのびした校風が 自立心を育ててくれた

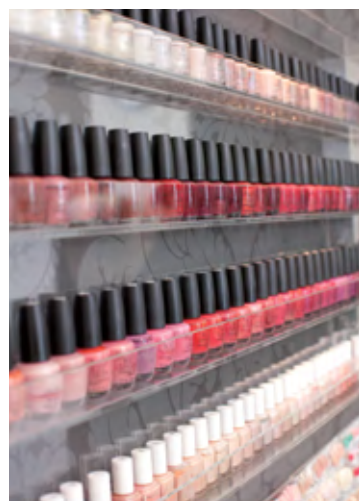
株式会社や海外市場の開拓など、常に明確な目標を見据え、その実現に向けてひた走る坂野さん。ポジティブで積極的な性格は小さい時からと思いきや、意外にも小学生の頃は親の言うことに何でも従う、いわゆる優等生だったという。中学受験では毎日勉強に明け暮れたが、英和の中学部に入学してから、それまでの性格がガラリと変わった。

「もう勉強しなくてもいいこと、憧れのお嬢様学校に入れたことで、一気に解放されちゃったんですよ。いつもキャッキョウしていた。毎日がとても楽しくて、笑ってはかきだつたというのが私の英和時代の記憶です。ミッション系ではあるけれど校風は自由で先生方も多少のいたずらや校則違反に目をつぶって

「すべて自分の意思で決めました。そうした自立心が培われたのは英和で解放されたことがきっかけ。もし小学生の時のまま親の言うなりだったら、今の自分とはちがった道を歩いていたかもしれない」

そして、坂野さんにとって最も大きな転機となったのが、ニューヨークでの特派員勤務だ。2年間の滞在中、新しいことにチャレンジするたくさんの人たちと出会い、刺激を受けた。それまでマスコミ以上におもしろい仕事はないと思っていたが、人生にはもっといろいろな可能性があると気づいた。

「ディレクターに使われる仕事ではなく、自分でディレクションをする仕事をしたい。そう思ったことも起業を決断した理由の一つでした」



「『為せば成る』というのが私の信条。20代でやりたいことをやり、30代は修業、40代で起業、そして50代にまた新たな挑戦をするというのが、私が描く人生のプランで、ほぼ思い通りに進んできました。もちろん、各ステージで苦労はたくさんあったけど、すべて自分が成長するための肥やしとなっている。その一番下の土台をつくってくれたのが、英和じゃないかなと思います」

東洋英和楓の会主催

橋本五郎氏講演会「真の教育とは何か」

2010年6月19日、楓の会では当会顧問である橋本五郎先生(読売新聞特別編集委員)の講演会を開催しました。

当日は、新マーガレット・クレイグ記念講堂に250名の方々をお招きし、「真の教育とは何か」と題してお話いただきました。

出席者からご好評をいただいたこの講演内容を、誌上再録版としてお届けします。

「汝、何の為に其処に在り哉」

本日は、これまでの私の人生の中で「恩師」と呼び得る人について、お話しさせていただきます。

一人目は、母校・秋田高校の鈴木健次郎校長先生です。

私が2年生の時、赴任してきたときの生徒への第一声が、『汝、何の為に其処に在り哉』、つまり、お前は何のためにそこにいるんだ、と問われたら、いつでもどこでもはっきり答えられるような人間になってほしい』でした。その光景を今でも鮮明に憶えています。前日の職員会議では、教職員にこう言ったそうです。「教育とは、青少年の足を洗うことである」。私は、「自分の身を屈めなければ、膝を地面につかなければ、人の足は洗えない。謙虚に、その人のことをよく考えながらやる、ということ」だと理解しています。

私のふるさと秋田は、小中学校の学力テストで3年間全国トップです。当初、「住んでいる人数が少ないから、たまたま飛びぬけた子が何人かいれば平均点が上にくるだろう」くらいに見られて

いました。ところが2年目もトップ。全国各地から秋田に視察が相次いだ。でも理由は誰にもよくわからない。私も調べても分からなかった。でも、3年目にして私は確信を持ちました。「早寝」「早起き」「朝ご飯」プラス「先生」。これしかないだろうと。

農家は朝4時ごろ起きてまず田んぼに行く。子どもも自然に早起きせざるを得ない。親が田んぼに行っている間に子供が朝食の準備を手伝う。農作業から帰ってくると親子一緒に朝ごはんを食べる。学校から帰ると、親は仕事でいなくても、三世同居が多いから祖父母がいる。夕食を食べると、早起きだから眠くなっちゃう。だから早寝。実に規則正しい生活をしているんです。

それから、秋田県は教員採用試験の競争率が非常に高い。厳しい競争を経て教員になると、なった後も仕事自体に対して思い入



れが強くなる。

教育の力は人間にどれほど大きな影響を与えるかわかりません。教育の制度論ばかりが取り上げられますが、今大切なことは、もっと先生を大事にすることではないかと私は思っています。

1年ごとの修了書

二人目は、9年半前に胃がんで胃を切ってくれた主治医の大山廉平先生です。

当時、早朝の2つの帯番組に出演していて、コラムを3本も作っていました。そんな生活を送っているなかで、楽しみは番組が朝8時半に終わって食べるご飯でした。ところが、ある時、食べたものが胃に落ちない。おかしい、ということで内視鏡検査をしたところ、胃がんが発覚しました。

遺書を5通書きました。家内と娘2人、一番上の兄、それから日本テレビの番組の責任者に。死と向き合ってみて、最も愛する家族にできるだけ負担をかけないよう死んでいきたいものだと、強く思いました。

大きな救いとなったのは、主治医の先生でした。50日間入院して、退院する時に先生にこういわれました。「あなたはもう、以前のあなたではありません。生まれ変わったと思ってください。今までいろいろなことができた。しかし、これからはもうできなくなるでしょう」「しかし、落胆することはありませんよ。もう生まれ変わったんですから。どのくらい生きられるかはわかりませんが、一日一日を大切にしてください。無事1年過ぎたら、あなたに1年生の修了書を差し上げましょう。無事2年過ぎたら、2年生の修了書を差し上げましょう。」そして、9年余りが経ちました。ようやく中学を卒業したという感じです。

その先生には、ずっと定期的に診てもらっているだけではなく、去年、秋田県の知事選に出るか出ないかという話があったとき、



■ Profile

1946年秋田県琴丘町(現三種町)生まれ。慶應義塾大学法学部政治学科卒。読売新聞社入社後、社会部、政治部などを経て、論説委員(政治、外交担当)、読売新聞編集委員を歴任。現在は読売新聞特別編集委員を務めるほか、日本テレビ系「ズームイン!!SUPER」に出演中(毎週月、火曜日)。東洋英和楓の会顧問。

主な著書に、『範は歴史にあり』(藤原書店)、『橋本五郎の「どうなる日本!」政治・経済ここがポイント』(弘文堂)、『議員秘書の真実』(共著、弘文堂)、『図解 日本政治の小百科』(一芸社)などがある。

忘れない三つのこと

大学を卒業するとき、おふくろから三つのことを言われました。

一つ目は、「何事にも手を抜いてはならない。常に全力で当たれ」。こうして、みなさんにお話しているときも、どこからか聞こえてくるようです。「お前は今、全力で話しているのか」。

二つ目は、「傲慢になってはいけません。仕事に慣れてくると、生意気になる。常に謙虚であれ」。私たちマスコミは傲慢な職業です。「国がどうした、政治がどうした」と、自分のことを棚に上げて偉そうに言う。もっともっと謙虚にならなければいけない。人を批判するときに最も大切なことは、批判される本人が「確かにそのとおりだ」と心に最も響くような批判でなければ真の批判ではないと私は思っています。

三つ目は、「どんな人でも嫌いになることはない。嫌だなと思ったら、その人の中に自分よりも優れているものがあるかどうかを見よ」。人はたいがい自分よりも優れているものを持っている。そうすると、もう嫌いじゃなくなるよ。そう言われました。

この三つを私は一日として忘れたことはありません。あの世に行ったときに、「母さんに言われたことはちゃんと守ってきたよ」と、胸を張って言いたい。「お天道様が見てる」という言葉があります。どこにいても何をしても見られている。私にとっておふくろはお天道様です。恥ずかしいことは絶対できないいつも思っています。

私は今、政治を主に担当しています。政治家にとってのお天道様とは何か。私は二つあると思います。一つは「ノブレス・オブリージュ、高い身分の人にはとりわけ重い責任がある」。二つ目は「私を捨てて公のために尽くす」ということです。私には今の政治にそれが見えない。政治で一番大切なのは何か。やっぱり心だ、行き着くところはそこだと私は思うのです。

最も積極的にやれと言ったのはその先生でした。結局は、辞めたんですが、先生は、「60歳を過ぎて、そこから考えるべきことは何か。それは公のために尽くすということだ。そういうことの前には、健康なんて度外視していいんです」なんて、おっしゃる。

私にとってはいろいろな意味で、生きる希望、そして、激励をいただいた先生です。

やり遂げたおふくろ

三人目は私の母親です。

私が生まれたところは、干拓された八郎潟という大きな湖の東のほとりです。電車は2~3時間に1本。バスもない。私が卒業した小学校は生徒が19人しかおらず、昨年統合されて、125年の歴史を閉じました。

おふくろは、そんな過疎の地で30年間一人暮らしをし、16年前に81歳で亡くなりました。その人生は、ただひたすら子どもたちに、そして地域に尽くす人生でした。私は、おふくろが布団で寝ている姿を一度も見たことがありません。誰よりも遅く寝て、誰よりも早く起きていました。いつ見ても電気がついているので、隣の家のおじいさんが、ちゃんと寝ているんだろうかと心配になって見に来たという話も聞きました。保険の外交員でしたが、朝5時半には釜で炊いたご飯で毎朝子供6人と親父の弁当を作り、晩ご飯の用意までして午前中は出かけていました。

そのおふくろはよく「平日には死ねない。平日に死んじゃうと、初七日、三十五日、四十九日、必ずその曜日で回ってくるぞ。子どもたちが東京から来て会社を休む日が多くなるぞ」とも言っていました。おふくろが実際亡くなったのは日曜日。亡くなって病院から家に連れて帰り、まだ温かい体のおふくろと一緒に布団に入りながら「母さん、よくやったね。最後の最後まで自分の言うとおりに実行したじゃない」そう言いました。



※この内容は当日の録音テープを元に一部割愛・再編集したダイジェスト版です。

皆様の賛助金が、東洋英和女学院の未来を創っていきます。楓の会のメンバーになって、東洋英和を応援しよう!

■ 東洋英和楓の会設立の趣旨

東洋英和楓の会は、同窓会、後援会をはじめとする学院諸団体をまとめる組織として設立され、学院諸団体の会員のほか、同窓生のご父母やご親族をはじめ、学院をお支え頂く意志のある方々により構成されています。会員相互の交流と、教養・芸術・文化活動の情報を分かち合うことなどを旨とするともに、東洋英和女学院の教育環境を充実させ、学院をさらに未来に向かって発展させるために、会員の皆様からの賛助金をお願いいたしております。

■ 東洋英和楓の会のメンバーとは…

- 東洋英和楓の会のメンバー構成は、以下のとおりです。
- 同窓会会員、後援会会員(在学生保護者)の皆様、現旧教職員
 - 年額1口3千円以上の賛助金を納入された次のいずれかに該当する方
 - ◆ 卒業生の保護者及びそのご家族の皆様
 - ◆ 在学生の保護者を除くご家族の皆様
 - ◆ 推薦に基づく個人及び教職員を除く学院関係者
 - ◆ 東洋英和幼稚園男子卒業生及び東洋英和女学院大学付属かえで幼稚園卒業生の皆様
 - 年額1口1万円以上の賛助金を納入された企業等の法人の皆様

【会員区分】

一般会員：同窓会会員、後援会会員の皆様、現旧教職員(賛助金無料)
 特別会員：卒業生の保護者及びそのご家族、又は在学生の保護者を除くご家族の皆様および企業等の法人の皆様

賛助会員：個人会員(推薦に基づく)及び学院関係者(教職員を除く)、東洋英和幼稚園男子卒業生及び東洋英和女学院大学付属かえで幼稚園卒業生の皆様

終身会員：20万円以上を一括してお納めいただくか、又は分割納入の額が20万円を上回った皆様(企業等の法人の皆様を除く)

■ 賛助金払い込み方法

ゆうちょ銀行からのお振込み
 同封の「振込用紙」をお使いのうえ、各窓口でお払い込みください。

■ 寄付金に対する免税措置について

この賛助金は所得税法上の優遇措置(寄付金控除)が適用されます。

◎ 個人の皆様

確定申告の際、平成22年分では年間所得金額の40%を限度として、その年の寄付金の合計額から2千円を差し引いた金額が、所得から控除されます。(平成23年度税制改正大綱が実施された場合には、新たに税額控除制度が導入されます。)また、個人住民税が軽減される自治体もあります。

賛助金をご入金いただいた年の翌年1月初めに、東洋英和楓の会より「特定公益増進法人証明書」をお送りいたします。

寄付された翌年の確定申告期間に所轄税務署で申請を行ってください。

◎ 法人の皆様

特定公益増進法人に対する寄付金の免税措置が適用されます。
 賛助金をご入金いただいた年の翌年1月初めに、東洋英和楓の会より「特定公益増進法人証明書」をお送りいたします。
 寄付金の一定限度額まで損金に算入できます。

◎ ご芳名の発表

賛助金をいただいた方全員のお名前を、KAEDE Magazineで順次発表させていただきます。匿名をご希望される場合はご意向に従い取り扱わせていただきます。

お問い合わせ先: **東洋英和女学院法人事務局 楓の会室**
 TEL 03-3583-3354(直通) FAX 03-3584-5227
 メールアドレス **kaedenokai@toyoeiwa.ac.jp**

Goods 楓の会グッズ

東洋英和楓の会グッズができました。
 今回制作したのはストラップとドラムバッグ。いずれも東洋英和の校章をデザインとして組み込んだお洒落な逸品です。今後、イベントなどで販売していく予定です。

- ストラップ(革・黒) 800円
- ストラップ(ラインストーン) 1,200円
- ドラムバッグ(白) 3,000円
- ドラムバッグ(ガーネット) 3,000円



Play イヨネスコ2作 大間知靖子×日向薫

演出家・大間知靖子さん(高等部卒業)と女優・日向薫さん(中学部卒業)との初顔合わせによる芝居が5月に上演されます。

公演日: 2011年5月21日(土) ~29日(日)
 会場: 銀座みゆき館劇場
 料金: 4500円
 主催: アンフィニの会 <http://infini-theatre.com/>
 作品: 『授業』『禿の女歌手』の二本立て
 出演: 藤田宗久、岡本瑞恵、日向薫、他

■お問い合わせ先
 ブルーシャトル 03-5728-0104



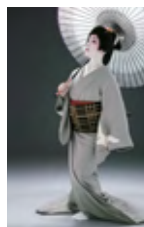
Play 霧の会 パリ公演

地唄舞神崎流四世家元神崎霧さん(中学部卒業)が2011年6月、初の海外公演を行います。

公演日: 2011年6月3日(金)、4日(土)
 会場: パリ日本文化会館大ホール
 出演: 舞/神崎流四世家元神崎霧 唄・三絃/二代目富山清琴(人間国宝)

箏/富山清仁
 主催: 「霧の会」パリ地唄舞公演実行委員会
 後援: 在日フランス大使館、フランス日本大使館、在日フランス商工会議所

■お問い合わせ先
 神崎流事務局 03-3441-5590
jiutamaikanzaki@yahoo.co.jp



Event Report 仲道郁代チャリティピアノコンサート

2010年10月30日、新マーガレット・クレイグ記念講堂でチャリティピアノコンサートが開催されました。このコンサートは東洋英和楓の会が主催し、その収益を学院の環境充実と、中高部生徒が参加するバンガラディッシュ小屋建設プログラムへ寄付することを目的としたものです。



今回はピアニスト仲道郁代さんをお招きし、「オール・ショパン プログラム」と題して行われました。

当日は台風14号が関東に接近中というあいにくの天候の中、同窓生を中心に約600名の聴衆が集まりました。

高等部の生徒の司会で始まったコンサート第一部では、ショパンの人生を仲道さんの弾く曲を鑑賞しながら丁寧に辿って行く、という内容。ショパンの祖国であるポーランドの歴史や文化、ジョルジュ・サンドとの出会いとマジョルカ島での生活の様子など、仲道さんの分かりやすい解説によって、それらがピアノ曲にどのように反映されているかを観客は実感することができたようです。

第二部の「ピアノ解体ショー」では、ステージ上に小学部の生徒が上り、仲道さんと質疑応答。ピアノという楽器の成り立ちを、実際にピアノ内部を示しながら説明していただきました。プロのピアニストと直に触れ合う機会はなかなかないだけに、児童、生徒にとっても大変貴重な機会だったことでしょう。

当日の演奏プログラム 演奏: 仲道郁代
 〈第一部〉ワルツ第2番 変イ長調「華麗なる円舞曲」op.34-1
 12の練習曲op.25第1番 変イ長調「エオリアンハーブ」
 スケルツォ第2番 変ロ短調 op.31
 24の前奏曲op.28第15番 変ニ長調「雨だれ」
 夜想曲第20番 嬰ハ短調「レント・コン・グラン・エスプレシオーネ」
 パラード第1番 短調 op.23
 〈第二部〉幻想即興曲 嬰ハ短調op.66
 “ピアノ解体ショー” ※アクションを取り出して、ピアノの仕組みを実際に見せて、仕組みを説明
 ワルツ第6番 変ニ長調「小犬」op.64-1
 ワルツ第7番 嬰ハ短調op.64-2
 12の練習曲op.10第12番 ハ短調「革命」
 12の練習曲op.10第3番 ホ長調「別れの曲」
 ポロネーズ第6番 変イ長調「英雄」op.53

Topics 「父親有志の会」

「父親有志の会」をご存知でしょうか。

事の始まりは、16年前に行われた111周年記念音楽会でした。1995年10月30日に新宿文化センター大ホールで行われた音楽会のトリを飾ることになったのは、モーツァルト「戴冠式」ミサのキリエ、グローリア、アニウス・デイの合唱。高二の出演者と一緒合唱する男性有志のコーラスを募ったところ、十数名の父親が協力を申し出ました。英和初の混声合唱団が誕生したのです。その後、父親の力を借りて行事などのお手伝いをしてもらおう、という流れが徐々に大きくなっていきました。現在メール登録数200名以上を誇る「父親有志の会」では、学院の発展と子女の健やかな成長に些少でも貢献すべく、以下のような活動を展開しています。

●「オープニングキャンプ」(野尻キャンプサイト開設準備)

97年に始まった活動です。それまで教員とOGで行っていた開寮は、大学生が試験で集まりにくくなり人手不足の問題が浮上。



学院からのヘルプ要請に応じて17名の父親が参加しました。現在では70名近くの父親が、7月下旬に2泊3日で修繕・整備などを行っています。

●「楓祭警備補佐」「進路学習」

10月下旬に行われる中高部楓祭への来校者が年々増える中、生徒が安心して発表に専念できるように、2003年から警備を行っています。

また、中学3年生の職業を学ぶ総合学習の一環として、父親たちが自分の職業観や働く意義などを話す機会ももっています。今年度は7月行われました。

●「クリスマス音楽会」「ハンドベルフェスティバル」

12月の中高部の名物行事「クリスマス音楽会」。97年から高校生と混声合唱を行っています。11月から音楽室で土日の合唱練習を重ねます。

また、2009年には「ハンドベルフェスティバル」に「お父さんベル」として、父親たちのベルチームが登場。2010年度も「父親リンガーズ」として参加しました。



「父親有志の会」の活動詳細については楓園63号をご覧ください。

本誌P15-16で紹介している楓の会主催「橋本五郎氏講演会」でも、父親有志の会会員である小森秀人さん、赤石健さんがビデオ撮影・DVD作成を行いました。



Schedule 楓の会主催「春の講演会」

楓の会主催「春の講演会」が開催されます。今回講演いただくのは鳥飼玖美子先生。同時通訳者の先駆けである鳥飼先生に、英語教育のあり方などについてお話しいただく予定です。ぜひご参加ください。

日時: 6月18日(土)
 場所: 新マーガレット・クレイグ記念講堂
 講師: 鳥飼玖美子先生 現立教大学教授(元東洋英和女学院大学教授)

鳥飼先生は高等部在学中に米国ニュージャージー州へ留学、1969年上智大学外国語学部イスパニア語学科を卒業されました。

その後、アポロ11号月面着陸時の同時通訳やラジオ番組「百万人の英語」の講師を20年間務めるなど、同時通訳者の草分けの一人として知られています。

また近年、「危うし!小学校英語」を上梓され、早期の英語教育に懸念を表明するなど、英語教育について積極的なご発言をされています。